



181人が出席し、満員となった会場

平成15年度通常総会が5月17日午後2時から、東京都千代田区の東京グリーンホテル水道橋で開か

平成15年度通常総会 新会長に平山善吉氏を選任

れた。総会には、会員181人が出席し、①平成14年度事業報告および収支決算・財産目録の承認②平成15年度事業計画および収支予算の承認③平成15・16年度役員及び評議員改選④平成15年度除籍予定者1の件について審議した結果、いずれも原案どおり可決承認した。会長の選任については、質疑・意見が相次いだ。(事業報告等の詳細内容は別掲)

■会長あいさつ

嬉しかった英文誌の発行

議案審議に先立ち、任期を終え

る大塚博美会長は次のように挨拶した。
「三つのことを掲げてきた。25支部を全部訪問すること、100周年記念事業の土台づくりを行うこと、そして登山活動の活性化である。すべて実現することができたと思う。また、長期改善計画を、アンケートをもとにして策定した。さらに、英文レポートが作成された。『極東の登山活動がよく分かった』と欧米から反応があり、嬉しかった。皆さんのご指導・ご支援に改めて感謝したい」

■事業報告・収支決算

会員数が戦後はじめて減少

この日の総会には2281の委任状が提出された。現在在籍者は



2003 年 (平成 15 年)
6 月号 (No. 697)

社団法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club

定価1部 150 円

URL●http://www.jac.or.jp

e-mail●jac-info@jac.or.jp

目 次

平成15年度通常総会 新会長に平山善吉氏を選任……………	1
新会長あいさつ……………	4
新副会長プロフィール……………	5
平成14年度事業報告……………	6
収支計算書・正味財産増減計算書・貸借対照表……………	7
財産目録……………	8
監事監査報告・平成15年度事業計画……………	10
平成15年度収支予算書……………	11
Climbing & Medicine・22……………	12
英文誌『ジャパニーズ・アルパイン・ニュース』第3,4号発行……………	13
海外の山……………	14
報告……………	16
学生部指導・指導委員会・全国大学山岳部会議/学生部・新人歓迎山行/山げらの会・歩くスキー……………	17
東西南北・日本百名山写真展……………	17
図書受入報告・新入会員……………	18
会務報告……………	20
INFORMATION……………	22
ルーム日誌……………	23

▶日本山岳会事務(含図書室)取扱時間
月・火・木……………10~20時
水・金……………13~20時
第2、第4土曜日……………閉室
第1、第3、第5土曜日……………10~18時
ルーム夏期休業日……………8月9~16日

5935人であり、出席者を合わせると、会員の3分の1を上回って総会は成立した。議事録の署名人には賛田統亜、永田弘太郎の両会員が選任された。
事業報告・計画は西村政晃総務担当常務理事、収支決算・予算および財産目録は村井龍一副会長財務担当が説明した。
【事業報告】国際山岳年への参加を底流に事業活動を行ってきた。6月2日の第56回ウェストン祭、9月21・22日に広島で行った全国支部懇談会、12月7日の年次晩餐会など、それぞれに盛況だった。海外登山では、日印合同の東カラコルム踏査・パドマナブ登山、日中友好チャール・オユー女子合同登山など、大きな成果をあげた。また、長期改善計画を策定した。ス

パイラル・アップして日本山岳会を活性化させていきたい。

【収支決算等】収支決算は、収入が8777万円となり、予算を335万円で上回った。会費・入会金は7174万円で収入全体の81・7%を占めた。しかし、新入会員192人に対し退会者・物故者・除籍者が236人にのぼり、この1年間で44人の純減となっていた。会員数が減ったのは戦後初めてのことである。

支出は9400万円で、予算を541万円上回った。「山岳」製作の経費増や「新日本山岳誌」の編集、パソコン費用などで支出が増えた。次期繰越収支差額は1213万円、期末正味財産合計額は4億1826万円となった。

これらに対し古市進監事から収支計算書等が正確かつ妥当であり、さらに理事の業務執行が誠実に行われたことを認める監査報告があった。

さらに、村井副会長は、3月に文部科学省の実地検査があったことを報告した。業務運営、事業内容、会計処理、予算決算の4項目について検査があり、すべての項目で最高級「A」の評価を得た。

AAAは極めて稀である。

■15年度事業計画・収支予算

全国支部懇談会は青森で

【事業計画】100周年に向けての活動と長期改善計画の実施がポイントとなる。8月15・20日には事業委員会が「親子で登る北アルプス」を実施する。9月10・18日にはヨセミテ紅葉の山旅トレッキングを企画、13・14日には全国支部懇談会を青森支部の主管で開催する予定。年次晩餐会は12月6日に行う。海外登山では、100周年記念として東海支部が厳冬のローツェ南壁に挑む。関西支部はツウイ・カンリ登山の偵察隊を派遣する。

【収支予算】これらに対する予算

は、収入を8559万円とした。前年度予算に比べ117万円の増加。新入会員は200人、退会者は240人と見込んだ。会員数は、2年連続の減少となる。支出は前年度予算とほぼ同じ8858万円。通常管理費は極力抑えたが、会員名簿の作成、英文ジャーナル、100年史の編集などで経費増となる。山岳研究所の運営費を修理費

増などで増額した。収支は298万円のマイナス。

これらの報告のあと、自然保護委「山のトイレマナー」の内容、かつてあった支部の山小屋、国際山岳年に対する日本山岳会の姿勢などについて質疑があった。

■理事・監事、評議員の改選

質疑・意見相次ぐ

議題は3号議案「役員・評議員の改選」に移った。大塚議長が、候補者を提示、質疑を求めたところ、発言を求める声があり、質疑・意見が相次いだ。

中尾正武会員(2525) 日本山

岳会をどう運営していくのか、候補者の考えがはつきりしない。評議員として候補者選びに参加したが、会の進め方や定款の解釈に終始し、会長候補のビジョンを聞くことができなかった。会長候補の削除を求めたい。

石田稔郎会員(6065) 関連し

て。候補者選任のいきさつを開示してほしい。

村井副会長 2月から4月にかけて

評議員会を相次ぎ開き、会長、副会長を経験されたかなどから

意見を聞いたが、なかなか決まらなかった。最後は平山、平林の両氏に選ばれた。しかし、なおまとめることができない。投票だけは避けたいと考えていたが、4月19日の臨時評議員会で投票となり、無記名採決の結果、平山氏13、平林氏11の結果となった。

江本嘉伸会員(8637) 新しい会長は、ビジョンを示し、それを会報に載せるべきだ。なにもなくて、いきなり協議しろといわれても無理だ。もっと優れた決め方があるのではないか。

阿部和行会員(4498) 先をみて実行していく人を選ぶべきではないか。100周年事業のプロジエクトづくりを進めてこられた平林さんが新しい会長に適任だと思う。

宮原魏会員(5125) 平山さん

は、昭和基地の建設など、南極で仕事をされてきた。日本山岳会では、評議員としても活発に活動され、多くの人の信任を得ておられる。1995年には日大隊の総隊長として、エヴェレスト東北稜からの初登頂に成功した。建築学会の副会長をつとめ、多々実績を残されており、社会的にも認められ



新会長と新評議員の紹介

ている。適任であると思う。

新妻徹会員 (5868) 2年前の総会を思い出す。以降、平山さんは「山」になんら掲載していない。評議員会の推薦だから、ひっくり返す考えはないが、私は平林さんが会長になると思っていた。

山田二郎名誉会員 (3473)

100周年事業のことを心配されているが、平林さんが副会長として担当し、平山会長が推進していく。考えてみれば、名人事ではないか。2人以外の人を候補者にしたかったので、本意でないのだが、執行部案に賛成したい。

大森薫雄会員 (5136) 評議員会で、平林さんを推薦した。理念、指導力、そして国際性のある人だ

と思う。100年プロジェクトに携わってこられた経験を活かして欲しい。

吉川尚郎会員 (5099) 評議員会での投票で決まったと報告された。両氏とも、よく知らないが、1票でも多いのに従うのが民主主義のルールではないか。

河野吏会員 (6842) 100周年に向かつて、日本山岳会の顔となる人を選ぶ重要な議題だ。私は、平林さんを推薦したい。

議論は白熱した。5分間の休憩をはさんで、結局は、多数の拍手でもって原案通り可決したが、一時は、2年前の混乱した総会を思わせる状況となった。会議は長引き、審議が終了したとき、時刻は4時を過ぎていた。

■15年度除籍予定者

推薦者は責任をもって対処

4号議案は除籍対象者の件。平成15年度は81人となった。会費を2年間滞納した人が対象となる。除籍者は平成12年度が45人、13年度が50人、14年度が45人だった。とくに推薦者は、会費を納めて留まるよう説得してほしいという要

請があった。

■報告事項

青森・岩手など支部長交代

支部長の交代が紹介された。新支部長は次ぎのとおり。

青森	根深 誠
岩手	菊池 修身
山形	菊地 俊彦
岐阜	早田 道治
広島	種村 重明

■新会長挨拶

会員の減少防止が課題

議事終了のあと、新役員・評議員が紹介され、平山新会長は「機会をとらえて、私の考えを述べていきたい。将来の展望について、役員との議論を深め、また皆さんの意見を聞きながら、結論を出し、それを実行していきたい。大きな課題は、会員が減少していることだ。おおいに反省しなければならなと思う」などと語った。

総会終了後、懇親会を開いた。山田二郎名誉会員が音頭をとって乾杯し和やかな歓談が続けた。

高橋 重之

■平成15・16年度理事・監事

会長	平山 善吉	新
副会長	芳賀 孝郎	再
同	平林 克敏	新
同	橋本 清	新
理事(カッコ内は担当)		
(山研運営)	小川 武	再
(会報編集)	今村 千秋	再
(指導)	黒川 恵	再
(事業)	朴元 鍾徳	再
(資料・映像)	鈴木 敬吾	再
(学生)	鳥居 和雄	再
(総務)	藤本 慶光	再
(図書)	田村 俊介	新
(科学)	石田 要久	新
(総務)	賛田 統亜	新
(自然保護)	篠崎 仁	新
(青年)	大蔵 喜福	新
(医療)	野口 いづみ	新
監事	内田 博	再
	一力 英夫	新

評議員
再任Ⅱ中尾正武、赤羽孝一郎、本田誠也、宮崎紘一、森武昭、中井俊一、山本晃弘、鰐坂青青
新任Ⅱ村上勝太郎、小倉童子、竹田寛次、中村保、松永敏郎、和口豊司、西村政晃、重廣恒夫、高原三平、磯野剛太、田中文男、深川安明

会長就任にあたって

平山 善吉



この度、皆さまの格別のご支援により会長に推挙されました。謹んでお受けするとともに、責任の重さを痛感しています。

日本山岳会の歴史は、日本の登山界の歴史といっても過言ではございません。そのような視点から見ても、日本山岳会は、我が国登山界の良きリーダーでなくてはならず、微力ながら私もその発展に寄与したいと思っています。

私は、日本山岳会の会員として、今日まで多くの先輩によって培われた歴史と、その中で築かれた伝統を誇りに思っています。私たちは、この歴史と伝統を尊重し、一人一人が自覚をもって本会を、明るく、楽しい会に盛り上げようではありませんか。このためには、会員は互いに信頼し、会則を遵守し、規則を守るこそ、楽しいクラブ・ライフの第一歩だと信じています。

さて本会は、間もなく創立100年の慶節を迎えます。私は大筋においては、前執行部の意向を踏襲したいと思っています。しかし、細部はまったく煮詰まっておらず、このためさっそく実行委員会を立ち上げなければなりません。すでに募金も始まっており、皆さまのご協力を切にお願いする次第です。

次に、本会の運営について若干ふれてみたいと思います。これには、情報をできるだけ開示するとともに、会員の皆さまの声を聞き、これを真摯に受け止め、新執行部によって議論を深めたいと思っています。とくにこの中で早急に検討したい問題は、会員の減少と、国際化に対する対応です。前者に関しては、本年、退会者が入会者を上回り、実質的な会員の減少となりました。適正規模に対する検討も必要ですが、会員の減少は、財政基盤にも大きく影響するた

め、この対策が急がれます。

次は国際化ですが、もちろん、国内他団体との協力も必要であり、これら団体と協力しつつ国際化に対応した体制を整える必要があります。この中で、特にアジア諸国の山岳団体と交流を密にする必要があります。

このように、早急に解決しなければならぬ問題もたくさんありますが、とりわけ100周年を含め前記2点に対応するため、早速行動計画を作成したいと思っています。

特に会の運営は、広く皆さまの参加による適材適所の人材起用によって、活性化を図りたいと思います。幸い、本会には他に誇り得る会員がたくさんおられます。これら多くの会員の本会活動への参加をぜひお願いする次第です。これとともに、会員は互いに権力、独善、自己中心を避け、公平、平等、協調の精神を尊重し、改めて融和を図り、信頼される日本山岳会の構築のために努力しようではありませんか。

最後に、日本山岳会は純粋な登山団体であり、かつては「より高き、より困難な山」を目指す団体であったと思います。しかし現在の日本山岳会の山登りは「挑戦する登山」から「スポーツ登山」、あるいは、中高

年のための「健康登山」「清掃登山」「交流登山」「学生登山」などとなり、今や、日本山岳会といえどもこれらを避けて通ることはできません。このようなことから「登山と自然環境」あるいは「中高年のための安全登山」など、新たな問題もたくさんあり、我々の果たす役割は多々あると思います。

改めて私は、日本山岳会の歴史と伝統の中で、会員のみなさまの期待に沿うべく、最善の努力をするとともに、他に誇り得る日本山岳会を築きたいと思っています。

不慣れな点も多々あり、ご迷惑をおかけするかもしれませんが、これからさらなるご支援、ご協力をお願いし、就任の挨拶といたします。

プロフィール

1934年、千葉県に生れる。56年3月日本大学工学部建築学科卒。在学中、山岳部に所属。大学院終了後、理工学部の手として、建築構造力学を専攻、建築学科教授(工学博士)。日大在職中、理事、評議員、常務理事を歴任、92・93年度には理事長代理、代行など大学の運営に携わる。本会には56年10月入会(会員番号4440番)。62年、日大ヒマラヤ登

山隊に参加。ムクトヒマールに初登頂。66、67年度、本会の理事(調査研究・図書担当)。向井ビルへの移転を機に、念願の独立した図書室を作る。その後、97年度から4年間、本会の常任評議員をつとめる。

文部省の南極観測計画には当初より参加、設営部門を担当、最年少隊員として第一次、第三次南極観測隊に参加。第三次では越冬。以後、南極観測事業が、国立科学博物館に移管されてからも、専門委員会の委員として協力、64年には、米国南極隊に参加。67年に国立極地研究所が設立された後も、引き続き専門委員会において、建築計画の立案に30年以上携わり、『極地設営工学』としての新しい、学問領域を開拓、現在も『極地研』の運営協議員として運営に携わっている。日本建築学会でも、理事、評議員、関東支部長などを歴任、98年、99年度には副会長として、学会の活性化に当った。

95年には、日大山岳部創部七十周年を記念して、エヴェレスト計画を立案、総隊長として全般を指揮して未踏の北東稜からの完登を果たした。山関係の著作に『エヴェレスト遥かなり』(山岳「第93年書評」、南極越冬記)がある。

副会長プロフィール

芳賀孝郎副会長(再任)



1934年、札幌市に生まれる。58年学習院大学経済学部卒業。在学中は山岳部に在籍、積雪期の北アルプスを中心に活動。株式会社ハガスキー入社、代表取締役、北海道スキー工業会会長、日本スキー工業組合副会長など歴任。92年(株)エイジス入社、取締役として現在に至る。

卒業と同時に本会に入会(会員番号4637番)、58年5月京都大学学芸部登山部チヨゴリザ登山隊に参加。8月ピアンジェ氷河7170m(無名峰)登山。90年学習院大学山岳部チヨール・オユー登山隊長。96年学習院大学カナダ、アルバータ登山隊参加。2000年日本山岳会アルバータ登山75周年記念実行委員。本会では85年北海道支部副支隊長、97年評議員、2001年副会長に就任、現代に至る。

平林克敏副会長(新任)

1934年大町市生まれ。中学・高校時代より自然科学に興味を持ち、



植物や山岳気象などを通じて北アルプスに登り続け山の虜になる。56年同志社大学卒業。関西電力(株)入社、60年(株)日本ダンロップ(住友ゴム工業の前身)に転職。取締役事業部長、常務を経て専務取締役に就任、(株)ダンロップスポーツ会長の歴任、現在住友ゴム工業(株)顧問。

在学中は山岳部のリーダーとして活躍。60年本会入会(会員番号5072番)。60年西ネパールの最高峰アピ初登頂、63年サイパル峰初登頂、70年日本山岳会エヴェレスト登山隊に参加、登頂隊員となる。85年初の日中友好合同登山隊長としてナムナニ峰に初登頂、新疆からチベットに至る5000mの学術調査を完結。エヴェレスト登山の功績により第8回秩父宮記念学術賞受賞。83年、2001年文部省登山研修所委員。同志社大学有識者懇談会委員、同志社大学経営戦略懇談会委員。本会で3回、10年間評議員を務める。著書に『ヒマラヤ サイパル登山』サンケイ新聞社、『エヴェレスト南西壁』(共著)集英社、『熱き心―登山と企業から学んだ人生哲学―』はるす出版などがある。

橋本清副会長(新任)



1938年東京生まれ。中学・高校から山岳部に在籍、明治大学入學

後も山岳部で非常にハードな登山活動を実践。62年明治大学卒業。1年間の会社勤め後独立、共栄ビル建設(株)代表取締役として現在に至る。

65年に明治大学ニュージージラント遠征隊参加。本会には66年入会(会員番号6066番)。76年明治大学エヴェレスト西稜隊の偵察隊長。85年植村直己氏がマッキンリー登頂後消息を絶つたため、明治大学山岳部OB会の救援隊長としてアラスカ入り。88年日本山岳会三国合同チヨモランマ登山隊の北側隊長として参加、遠征隊の組織、中国・ネパールとの交渉、テレビの生中継手続きなどを処理、無事交差縦走を成功させ、5月5日に世界初のチヨモランマからのテレビ生中継を実現させた。95年明治大学山岳部監督就任。強い明治の復活をスローガンに、コーチ、学生が一体となって成果を上げ、97年のマナスル、2001年ガッシャブルム・II峰の連続登頂、02年のローツェ登頂、03年のアンナプルナ南壁ルート登攀成功へと導いた。

(社)日本山岳会 平成14年度事業報告

平成14年4月1日～平成15年3月31日

- 12月8日 年次晩餐会記念山行 (集会) 関八州・見晴台
 12月12日 早大ムスタン王国未踏峰・中大チョーオユー、
 明大ローツェ報告会 (青年・学生)
- 12月14・15日 2003年度探索山行下見 (科学) 熊伏山
 12月15日 第9回古道を歩く (図書) 秩父・妻岐峠
 12月30日 冬山報告会 (学生)
- 12月29～1月4日 山研年末年始特別開所 (山研) 上高地
 1月11～13日 スキー懇親山行 (集会) 五竜遠見
 1月23日 講演会「山岳滑降の美学」(青年) 本会
 1月27日 大学山岳部監督ミーティング準備会 (指導・遭
 難対策・学生) 法政大学
- 2月8日 雪崩講習会 (指導) 梅池
 2月14～16日 ヒマヤンクラブ75周年参加 (高所・海外) インド
 2月15・16日 支部事務局担当者会議 (総務) グリーンホテル
 2月27日 韓国アイスクライミング報告会 (青年) 本会
 2月 2003年度自然保護全国集会打合せ(自然保護)
 岐阜
- 2月 森づくりシンポジウム (自然保護) 高尾
 2月 ラッセルコンペ (学生) 中大ヒュッテ
 3月15・16日 自然観察山行 (自然保護) 千葉・房総
 3月20日 講演会「ゴム貼り靴底の剥離問題とメーカーの
 対応」(科学) 本会
 3月25日 第31回山岳史懇談会 (図書) 本会
 3月28日 平成14年度大学山岳部監督ミーティング
 (指導・遭難対策・学生) 法政大学
2. 登山施設の運用、その他登山のための適切な事業
 *上高地山岳研究所の運用
 *受入れ資料保管
 *各博物館、美術館との提携強化
 *海外遠征の記録、会合、行事等の記録、フィルムのビデオテ
 プ化による保存
3. 山岳遭難の予防とその対策に関する企画および指導
 *4月 合同事故調査委員会
 *7月 全国山岳遭難対策協議会への出席 (宇都宮)
 *7月 山の救急・救助法講習会
 *2月 雪崩講習会
 *通年 日山協・労山・都岳連との合同調査活動
4. 自然保護活動の推進
 *自然保護委員会による自然保護指導者養成のための「山の自然
 学講座」
 *自然保護委員会会報「木の目草の芽」隔月刊行
 *自然保護委員会による「高尾の森づくり」
 *「山のトレマナーノート」の配布
5. 機関誌等の発行
 *山岳第97年 (2002年) の発行
 *会報683号～694号の発行
 *インターネット・ホームページの更新
 *海外向英文誌「Japanese Alpine News」発行
 *青年部会報「きりぎりす」発行
6. 国内および外国山岳団体との情報交換
 *国内関係団体 (日本山岳協会・東京都山岳連盟・日本ネパール
 協会・日本ヒマラヤ協会・HAT-J・その他) との連絡
 *海外登山団体との機関誌の交換および情報誌の購入
7. 海外登山等
 *日印合同登山 東カラコルム踏査・パドマナブ登山隊
 *日・中友好チョー・オユー女子合同登山隊
8. その他目的を達成するために必要な事業
 *「国際山岳年」記念事業に参加
 *「長期改善計画」の策定
 *山岳図書の整備
 *山研ミニ水力発電装置移動運営
 *海外登山基金による助成
 *第5回秩父宮記念山岳賞の授与
 *100周年記念事業の計画推進
 *百年史の編集
 *「新日本山岳誌」の編集
 *山岳図書新刊目録の作成
 *その他

1. 登山の指導と奨励に必要な集会、研修会、講演会、展覧会、
 およびシンポジウムの開催
- 4月11日 第30回山岳史懇談会 (図書) 本会
 4月12日 宮森常雄氏講演会 (高所) 本会
 4月14日 「高尾の森づくり」植樹祭 (自然保護) 高尾山
 4月17日 合同事故調査委員会 (遭難対策) 本会
 4月29日 山研開所 (山研) 上高地
 5月5～7日 沢登り集会 (学生) 笛吹川東沢西沢
 5月10日 新入部員歓迎会 (学生) 本会
 5月11・12日 探索山行下見 (科学) 糸魚川・大綱
 5月16日 講演会「塩の道」(科学) 本会
 5月17日 支部長懇談会 (総務) YMCA
 5月18日 支部長会議 (総務) YMCA
 5月18日 通常総会 (総務) YMCA
 5月18・19日 第22回日本登山医学シンポジウム(医療) 京都大学
 5月19～22日 若葉山行 (集会) 屋久島
 5月30日 講演会「鳥帽子大水柱の登攀」(青年) 本会
 6月1・2日 新入会員のための「徳本峠越えとウェストン祭」
 (山研) 上高地
 6月2日 第56回ウェストン祭 (信濃支部) 上高地
 6月8・9日 探索山行「フォッサマグナと塩の道」(科学)
 大綱・山口
- 7月4日 全国山岳遭難対策協議会出席 (遭難対策) 宇都宮
 7月4日 講演会「夏の気象」(科学) 本会
 7月12～14日 自然保護全国集会 (自然保護) 北海道・大雪山麓
- 7月15日 同好会連絡会議 (総務) 本会
 7～8月 上高地山研特別展 大森弘一郎写真展 (資料) 上高地
- 7月18日 講演会「吸湿発熱繊維」(科学) 本会
 7月26日 講演会「卒業以降の山登り」(青年) 本会
 7月27日 「山の救急・救助法」講演会 (指導) 焼岳
 8月17～19日 フォーラムIN (自然保護) 松枝岐
 8月28日 山研ミッテルレギー小屋プレート取付 上高地
 9月6日 ビールパーティ (総務) 本会
 9月7日 名誉会員を囲む会 (総務) 本会
 9月14～16日 「オートムコンサート」と奥又白ハイキング(山研) 上高地
 9月18日 講演会「チベットのアルプスへ」(海外・高所・青年) 東京体育館
- 9月20日 第34回山岳図書を語る夕べ(図書・資料) 本会
 9月21・22日 第19回全国支部懇談会 (広島支部) 宮島
 9月26日 パドマナブ峰遠征報告会 (青年・高所) 本会
 9月26日 夏山合宿報告会 (学生) 本会
 9月26～29日 紅葉山行 (集会) 知床
 10月1～5日 UIAA世界山岳連盟2002年次総会出席(海外) USA
 10月5日 山岳博物館巡回作業 (資料) 河口湖美術館
 10月5・6日 自然観察山行 (自然保護) 伊豆
 10月8日～ 山岳写真展 (フィルム・ビデオ) 上高地
 10月17日 講演会「機能性新素材」(科学) 本会
 10月19・20日 焼岳登山と「中年のための高所登山とトレ
 キング」(山研) 上高地
- 10月19日 新入会員オリエンテーション (総務) 本会
 10月19・20日 虹芝寮集会 (青年) 谷川岳
 10月26日 第6回全国山岳博物館連絡会議 (資料) 秩父宮記念スポーツ博物館
- 11月2日～ 山岳写真展 (フィルム・ビデオ) 野村ビル
 11月8日 クラシックビデオ上映会(フィルム・ビデオ) 本会
 11月9日 山研開所 (山研) 上高地
 11月9日 医療委員会講演会 (医療) 杏林大学
 11月10日 函南原生林ウォッチング (科学) 函南
 11月17日 マラソン大会 (学生) 皇居外苑
 11月21日 第11回山を語る (図書) 本会
 11月16日 フォーラム「山の食事を考える」(科学) シニアワーク東京
- 12月3日 中国チベット登山協会メンバー来日(海外) 東京
 12月7日 支部長会議 (総務) 新高輪プリンスホテル
 12月7日 年次晩餐会 (総務) 新高輪プリンスホテル

振替手数料	700,000	640,470	59,530
福利厚生費	250,000	247,303	2,697
事務所管理費	1,000,000	955,370	44,630
その他管理費	2,900,000	3,566,071	△666,071
負担金	100,000	80,000	20,000
退職金	0	422,813	△422,813
貸借料	5,500,000	5,508,000	△8,000
雑費	1,000,000	863,628	136,372
管理費計	30,190,000	29,963,897	226,103
3. 固定資産取得支出			
什器備品購入支出	0	0	0
固定資産取得支出計	0	0	0
4. 特定預金支出			
長期計画積立金支出	5,000,000	4,200,000	800,000
秩父宮記念賞基金支出	1,000,000	1,000,000	0
海外登山基金支出	0	0	0
終身会費積立金支出	0	1,194,000	△1,194,000
退職給与引当預金支出	0	0	0
特定預金支出計	6,000,000	6,394,000	△394,000
5. 予備費			
予備費	1,500,000	0	1,500,000
当期支出合計(C)	88,590,000	94,009,852	△5,419,852
当期収支差額(A)-(C)	△4,170,000	△6,232,456	2,062,456
次期繰越収支差額(B)-(C)	14,193,667	12,131,211	2,062,456

正味財産増減計算書

平成14年4月1日～平成15年3月31日

科 目	金 額	
I. 増加の部		
1. 資産増加額		
棚卸資産	658,756	
長期計画積立金	4,200,000	
秩父宮記念賞基金	1,000,000	
終身会費積立金	1,194,000	7,052,756
2. 負債減少額	0	0
増加額合計		7,052,756
II. 減少の部		
1. 資産減少額		
当期収支差額	6,232,456	6,232,456
2. 負債増加額	0	0
減少額合計		6,232,456
当期正味財産増加額		820,300
前期繰越正味財産額		417,448,922
期末正味財産合計額		418,269,222

貸借対照表

平成15年3月31日現在

科 目	金 額	
[I] 資産の部		
1. 流動資産		
現金	124,946	
振替貯金	2,681,708	
普通預金	4,350,427	
定期預金	0	
未収会費	5,208,000	
棚卸資産	2,455,554	
流動資産合計		14,820,635
2. 固定資産		
基本財産		

収支計算書

平成14年4月1日～平成15年3月31日まで

科 目	予算額	決算額	差異	備考
I. 収入の部				
1. 基本財産運用収入				
基本財産利息収入	10,000	4,070	5,930	
2. 会費・入会金収入				
入会金収入	4,600,000	3,580,000	1,020,000	
復活入会金収入	0	100,000	△100,000	
通常会費収入	68,000,000	66,869,000	1,131,000	
終身会費収入	0	1,194,000	△1,194,000	
会費・入会金収入計	72,600,000	71,743,000	857,000	
3. 事業収入				
広告料収入	2,200,000	2,084,080	115,920	
印税収入	10,000	547	9,453	
刊行物売上収入	350,000	504,170	△154,170	
山研使用料収入	3,500,000	3,277,387	222,613	
その他事業収入	4,800,000	4,983,035	△183,035	
事業収入計	10,860,000	10,849,219	10,781	
4. 補助金等収入				
補助金収入	0	2,000,000	△2,000,000	(注)1
5. 寄付金収入				
寄付金収入	0	2,010,000	△2,010,000	
募金収入	0	0	0	
寄付金収入計	0	2,010,000	△2,010,000	
6. 雑収入				
受取利息	150,000	59,927	90,073	
雑収入	800,000	1,111,180	△311,180	
雑収入計	950,000	1,171,107	△221,107	
7. 特定預金取崩収入	0	0	0	
当期収入合計(A)	84,420,000	87,777,396	△3,357,396	
前期繰越収支差額	18,363,667	18,363,667	0	
収入合計(B)	102,783,667	106,141,063	△3,357,396	

(注) 1 「社団法人国土緑化推進機構」助成金 ￥2,000,000-

科 目	予算額	決算額	差異	備考
II. 支出の部				
1. 事業費				
出版費	11,100,000	11,582,980	△482,980	
図書管理費	400,000	360,995	39,005	
調査研究費	3,300,000	3,383,106	△83,106	
指導費	1,350,000	1,016,093	333,907	
支部関係費	12,500,000	13,067,047	△567,047	
海外諸関係費	400,000	653,349	△253,349	
海外登山補助費	1,600,000	1,600,000	0	
山岳研究所運営費	4,950,000	5,227,055	△277,055	
その他事業費	9,000,000	14,098,502	△5,098,502	
印刷・製本費	1,000,000	1,067,989	△67,989	
刊行物発送費	5,300,000	5,594,839	△294,839	
事業費計	50,900,000	57,651,955	△6,751,955	
2. 管理費				
給料手当	12,400,000	12,255,700	144,300	
文具消耗品費	350,000	480,932	△130,932	
印刷製本費	1,100,000	960,910	139,090	
旅費交通費	800,000	829,280	△29,280	
通信運搬費	1,200,000	839,225	360,775	
火災保険料	320,000	320,990	△990	
修繕費	200,000	0	200,000	
租税公課	500,000	463,732	36,268	
光熱水料費	1,000,000	704,014	295,986	
電話料	470,000	614,010	△144,010	
会議費	200,000	211,449	△11,449	
什器備品費	200,000	0	200,000	

4. 固定資産の取得価格、減価償却累計額および当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取 得 価 格	減価償却累計額	当期末残高
建 物	144,423,000	0	144,423,000
什 器 備 品	9,584,982	0	9,584,982
合 計	154,007,982	0	154,007,982

財 産 目 録

平成15年3月31日現在

科 目	金 額		
I 資 産 の 部			
1. 流 動 資 産			
現金預金			
現 金 現金手許有高	124,946		
振替貯金 千代田四番町郵便局	2,681,708		
普通預金 りそな銀行市ヶ谷支店	1,595,469		
〃 東京三菱銀行市ヶ谷支店	2,451,012		
〃 中央三井信託銀行本店	290,378		
〃 みずほ銀行市ヶ谷支店	3,276		
〃 三井住友銀行飯田橋支店	6,025		
〃 UFI銀行新宿支店	1,406		
通常預金 千代田四番町郵便局	2,861		
未収会費 434名	5,208,000		
棚卸資産 (注) 1	2,455,554		
流動資産合計		14,820,635	
2. 固 定 資 産			
(1)基本財産			
貸付信託 中央三井信託銀行	8,000,000		
基本財産合計	8,000,000		
(2)その他固定資産 (注) 2			
土 地	46,297,170		
建 物	144,423,000		
敷 金	840,000		
什器備品	9,584,982		
長期計画準備金 (定期預金・千代田四番町郵便局)	5,043,000		
〃 (定期預金・東京三菱市ヶ谷)	52,550,000		
〃 (普通預金・東京三菱市ヶ谷)	9,200,054		
〃 (普通預金・みずほ市ヶ谷駅前)	804,609		
秩父宮記念基金 (定期預金・UFI新宿)	15,000,000		
終身会費積立金 (定期預金・みずほ市ヶ谷)	18,344,041		
海外登山基金 (普通預金・りそな市ヶ谷)	33,605,219		
〃 (定期預金・三井住友飯田橋)	30,000,000		
〃 (普通預金・みずほ市ヶ谷駅前)	30,000,072		
退職引当金 (定期預金・みずほ市ヶ谷)	4,691,620		
その他固定資産合計	400,383,767		
固定資産合計		408,383,767	
資産合計			423,204,402
II 負債の部			
1. 流 動 負 債			
前受会費 平成15年度会費 12名分	144,000		
預り金 職員に対する源泉所得税その他	99,560		
流動負債合計		243,560	
2. 固 定 負 債			
退職給与引当金	4,691,620		
固定負債合計		4,691,620	
負債合計			4,935,180
正味財産合計			418,269,222

貸 付 信 託	8,000,000		
基 本 財 産 合 計	8,000,000		
そ の 他 の 固 定 資 産			
土 地	46,297,170		
建 物	144,423,000		
敷 金	840,000		
什 器 備 品	9,584,982		
長 期 計 画 準 備 金	67,597,663		
秩父宮記念賞基金	15,000,000		
終身会費積立金	18,344,041		
海外登山基金	93,605,291		
退職引当預金	4,691,620		
その他の固定資産合計	400,383,767		
固 定 資 産 合 計		408,383,767	
資 産 合 計			423,204,402
[2] 負債の部			
1. 流 動 負 債			
前 受 会 費	144,000		
預 り 金	99,560		
流 動 負 債 合 計		243,560	
2. 固 定 負 債			
退 職 給 与 引 当 金	4,691,620		
固 定 負 債 合 計		4,691,620	
負 債 合 計			4,935,180
[3] 正味財産の部			
正 味 財 産			418,269,222
(うち基本金)			(8,000,000)
(うち当期正味財産増加額)			(820,300)
負債及び正味財産合計			423,204,402

計算書類に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準および評価方法について
基本財産の貸付信託は、総平均法による原価基準を採用している。
- (2) 固定資産の減価償却について
建物および什器備品の減価償却は行っていない。
- (3) 引当金の計上基準について
退職給与引当金は期末退職給与の要支給額の117%に相当する額を計上している。
- (4) 資金の範囲について
資金の範囲には、現金預金、未収会費、前受会費および預り金を含めている。
なお、前期末および当期末残高は下記3に記載のとおりである。

2. 基本財産の増減額およびその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加	当期減少	当期末残高
貸付信託 (中央三井信託銀行)	8,000,000	0	0	8,000,000
合 計 (基 本 金)	8,000,000	0	0	8,000,000

3. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期末残高	備 考
現 金 預 金	14,709,077	7,157,081	
そ の 他 預 金	0	9,690	
未 収 会 費	3,960,000	5,208,000	
合 計	18,669,007	12,374,771	
前 受 会 費	161,000	144,000	
預 り 金	144,410	99,560	
合 計	305,410	243,560	
次期繰越収支差額	18,363,667	12,131,211	

監事監査報告

平成15年4月14日に行った平成14年度(平成14年4月1日～平成15年3月31日)における会計の監査ならびに期中の業務監査の結果を、次の通り報告する。

記

会計監査については、帳簿ならびに関係書類の閲覧等、必要と思われる手続きを用いて計算書類の正確性を検討した。

業務監査については、理事会等に出席し、業務執行の妥当性を検討した。

監査意見は次の通り。

- (1) 現金については、監査日当日現在の残高と、帳簿の金額は一致し、正しく出納されているものと認める。
- (2) 収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録は本会の収支状況および財政状態を正しく示しているものと認める。
- (3) 事業報告の内容は、真実であると認める。
- (4) 理事の職務執行に関する不正の行為または法令、定款に違反する重大な事実はないと認める。
- (5) 終身会費積立金の取り扱いについて。従来、終身会費は前受金という性格を考慮し、終身会費積立金として処理され、取崩されることなく今日に至っている。しかし、終身会費は通常会費の一括前払いという性格のものであり、経年的に取崩して通常会計に繰り入れる方策を考えることも必要である。現在、積立額も相当額に達していることでもあり、しかるべき規定を定め、適切な活用を図る時期であると考え。

以上

(社)日本山岳会 平成15年度事業計画

平成15年4月1日～平成16年3月31日

1. 登山の指導と奨励に必要な集会、研修会、講演会、展覧会、およびシンポジウムの開催
 - 4月13日 「高尾の森づくり」植樹祭(自然保護) 高尾山
 - 4月15日 講演会「メコン河源流航行踏査」(海外・事業) 東京体育館
 - 4月20～5月14日 カングリ・シャル支援トレッキング(事業) エヴェレスト街道
 - 4月28日 山研開所(山研) 上高地
 - 4月 学生部総会(学生)
 - 5月15日 講演会「南の塩の道について」(科学) 本会
 - 5月16日 支部長懇談会(総務) グリーンホテル
 - 5月17日 支部長会議(総務) グリーンホテル
 - 5月17日 通常総会(総務) グリーンホテル
 - 5月22日 登山報告会、講演会「卓越した登山、ユニークな登山」(青年)
 - 5月 山岳映画会 アーカイブ作品上映(資料・映像)
 - 5月 新入部員歓迎会(学生)
 - 5月31・6月1日 第23回日本登山医学シンポジウム(医療) 東京
 - 5月31・6月1日 新入会員のための「徳本峠越えとウェストン祭」(山研) 上高地
 - 6月1日 第57回ウェストン祭(信濃支部) 上高地
 - 6月1日 若葉山行 山菜探索(事業) 出羽山
 - 6月7・8日 探索山行「南の塩の道」(科学) 秋葉山・熊伏山
 - 6月 第10回古道を歩く(図書)
 - 6月 沢登り集会(学生)
 - 7月14日 同好会連絡会議(総務) 本会
 - 7月24日 登山報告会、講演会(青年)
 - 7月～8月 山岳絵画特別展 茨木猪之吉展(資料・映像) 上高地
 - 7月 救急法講演会(指導)
 - 7月 全国山岳遭難対策協議会への出席(指導) 滋賀県
 - 7月 講演会「山の気象」(科学)
 - 7月 前期納会(学生)
 - 8月15～20日 親子で登る北アルプス 雪渓と岩と高山植物に親しむ(事業) 立山・剣
 - 8月 写真展・巡回展(資料・映像)
 - 8月 フォーラムIN(自然保護)
 - 9月5日 ビールパーティ(総務) 本会
 - 9月6日 名誉会員を囲む会(総務) 本会

- 9月10～18日 ヨセミテ紅葉の山旅(事業) ヨセミテ
- 9月13・14日 第20回全国支部懇談会(青森支部) 十和田湖
- 9月20・21日 オータムコンサート(山研) 上高地
- 9月25日 登山報告会、講演会(青年)
- 9月 第12回山を語る(図書)
- 9月 講演会(資料・映像)
- 9月 講演会「登山用具の素材」(科学)
- 9月 自然観察山行(自然保護) 下妻
- 9月 小川山集会(学生)
- 10月10～13日 紅葉山行 四国の最高峰を目指す(事業) 石鎚山～剣山
- 10月18日 新入会員オリエンテーション(事業) 本会
- 10月18・19日 虹芝寮集会(青年) 谷川岳
- 10月 講演会(海外) 東京体育館
- 10月 第7回全国山岳博物館会議(資料・映像)
- 10月 自然保護全国集会(自然保護) 岐阜
- 10月 森づくりシンポジウム(自然保護)
- 11月7日 山研開所(山研) 上高地
- 11月 第35回山岳図書を語る夕べ(図書)
- 11月 山岳映画会 アーカイブ作品上映(資料・映像)
- 11月 大学山岳部指導者ミーティング(指導・学生)
- 11月 シンポジウム「分水嶺」(科学)
- 11月 マラソン大会(学生)
- 11月 ポカラ国際山岳博物館(IMM)開所式 海外
- 12月6日 支部長会議(総務) 新高輪プリンスホテル
- 12月6日 年次晩餐会(総務) 新高輪プリンスホテル
- 12月7日 年次晩餐会記念山行(事業) 弘法山～鶴巻温泉
- 12月18日 登山報告会、講演会(青年)
- 12月30～1月3日 年末年始山研自然観察会(山研) 上高地
- 1月10～12日 懇親スキー山行・雪山講習(事業) 韓国雪岳山
- 1月 冬山報告会(学生)
- 2月7～9日 第2回「雪を知る」雪崩講習会(指導)
- 2月15・16日 アイスクライミング研修会(指導・青年・学生) 八ヶ岳
- 2月21・22日 支部事務局担当者会議(総務)
- 2月 第32回山岳史懇談会(図書)
- 2月 講演会(科学)
- 2月 自然観察山行(自然保護) 奥多摩
- 2月 支部自然保護委員連絡会(自然保護)
- 3月 新人勧誘対策・後期納会(学生)
- 2. 登山施設の運用、その他登山のための適切な事業
 - * 上高地山岳研究所の運用
 - * 受入れ資料保管
 - * 各博物館、美術館との提携強化
 - * 海外遠征の記録、会合、行事等の記録、フィルムのビデオテープ化による保存
- 3. 山岳遭難の予防とその対策に関する企画および指導
 - * 7月 全国山岳遭難対策協議会への出席(滋賀県)
 - * 通年 日山協・労山・都岳連との合同調査活動
- 4. 自然保護活動の推進
 - * 自然保護委員会による自然保護指導者養成のための「山の自然学講座」
 - * 自然保護委員会会報「木の目草の芽」隔月刊行
 - * 自然保護委員会による「高尾の森づくり」
- 5. 機関誌等の発行
 - * 山岳第98年(2003年)の発行
 - * 会報695号～706号の発行
 - * インターネット・ホームページの更新
 - * 海外向英文誌「Japanese Alpine News」発行
 - * 青年部会報「きりぎりす」発行
 - * 会員名簿(2003)発行
- 6. 国内および外国山岳団体との情報交換
 - * 国内関係団体(日本山岳協会・東京都山岳連盟・日本ネパール協会・日本ヒマラヤ協会・HAT-J・その他)との連絡
 - * 海外登山団体との機関誌の交換および情報誌の購入
- 7. 海外登山等
 - * 末路峰カングリ・シャルシニア登山隊
 - * 冬期ローツェン南壁登山隊2003(創立100周年記念登山・東海支部)
 - * ツツイ・カンリ登山偵察隊(創立100周年記念登山・関西支部)

旅 費 交 通 費	800,000	800,000	0
通 信 運 搬 費	1,200,000	1,200,000	0
火 災 保 険 料	320,000	320,000	0
修 繕 公 課	100,000	200,000	△ 100,000
租 税 公 課	480,000	500,000	△ 20,000
光 熱 水 料 費	800,000	1,000,000	△ 200,000
電 話 料 費	500,000	470,000	30,000
会 議 費	180,000	200,000	△ 20,000
什 器 備 品 費	100,000	200,000	△ 100,000
振 替 手 数 料	800,000	700,000	100,000
福 利 厚 生 費	300,000	250,000	50,000
事 務 所 管 理 費	970,000	1,000,000	△ 30,000
そ の 他 管 理 費	2,800,000	2,900,000	△ 100,000
負 担 金	80,000	100,000	△ 20,000
貸 借 料	5,700,000	5,500,000	200,000
雑 費	900,000	1,000,000	△ 100,000
管 理 費 計	29,980,000	30,190,000	△ 210,000
3. 固定資産取得支出			
什器備品購入支出	0	0	0
固定資産取得支出計	0	0	0
4. 特定預金支出			
長期計画積立金支出		5,000,000	△ 5,000,000
秩父宮記念賞基金支出	1,000,000	1,000,000	0
海外登山基金支出	0	0	0
終身会費積立金支出	0	0	0
退職給与引当金支出	0	0	0
特定預金支出計	1,000,000	6,000,000	△ 5,000,000
5. 予備費			
予備費	1,500,000	1,500,000	0
当期支出合計(C)	88,580,000	88,590,000	△ 10,000
当期収支差額(A)-(C)	△ 2,985,000	△ 4,170,000	
次期繰越収支差額(B)-(C)	9,146,211	14,193,667	

「山の本」新刊発売中!!

関西の沢登り(1) 台 高 の 沢

樋上嘉秀 著 四六判 230頁 本体1,900円

台高山系の谷は水量も豊富、数十米の大滝をいくつも架けて豪快。32谷を厳選して詳細地図付きで紹介。

鈴鹿の山を歩く

草川啓三 著 四六判 330頁 本体2,500円

全山約85のプロフィールとガイド。珠玉の尾根歩きコース20を紹介。カラーフォトエッセイなど、盛沢山な内容。

●好評発売中

全世界紀行―民族と歴史、そして冒険

南里章二 著 (9364) A5判 480頁 本体2,700円

シルクロード、ヒマラヤの踏査。コンゴ、アマゾン川下り。サハラ砂漠縦横断など、世界全独立国192カ国を旅して。

カラコルム・ヒンズークシュ登山地図

〔付〕カラコルム・ヒンズークシュ山岳研究

A4変型判 上製美装ケース入 385ページ B全判地図13葉

宮森常雄(秩父宮記念山岳賞受賞)・雁部貞夫 共著

◎好評発売中!! 定価(本体33,000円+税)

ナカニシヤ出版

〒606-8316 京都市左京区吉田二本松町2

Tel.075-751-1211 Fax.075-751-2665

URL <http://www.nakanishiya.co.jp/>

8. その他目的を達成するために必要な事業

- * 山岳図書の整備
- * 山研ミニ水力発電装置稼働運営
- * 海外登山基金による助成
- * 第6回秩父宮記念山岳賞の授与
- * 100周年記念事業の計画推進
- * 百年史の編集
- * 『新日本山岳誌』の編集
- * その他

平成15年度 収支予算書

平成15年4月1日から平成16年3月31日まで

科 目	平成15年度予算額	前年度予算額	増 減	備考
1. 取 入 の 部				
1. 基本財産運用収入				
基本財産利息収入	5,000	10,000	△ 5,000	
2. 会費・人会金収入				
人会金収入	4,000,000	4,600,000	△ 600,000	
通常会費収入	67,000,000	68,000,000	△ 1,000,000	
終身会費収入	0	0	0	
会費・人会金収入計	71,000,000	72,600,000	△ 1,600,000	
3. 事 業 取 入				
広告料収入	2,900,000	2,200,000	700,000	
印 税 収 入	10,000	10,000	0	
刊行物売上収入	300,000	350,000	△ 50,000	
山研使用料収入	3,500,000	3,500,000	0	
その他事業収入	4,500,000	4,800,000	△ 300,000	
事業収入計	11,210,000	10,860,000	350,000	
4. 補助金等収入				
補助金収入	0	0	0	
5. 寄付金収入				
寄付金収入	0	0	0	
6. 雑 取 入				
受 取 利 息	80,000	150,000	△ 70,000	
雑 取 入	800,000	800,000	0	
雑 取 入 計	880,000	950,000	△ 70,000	
7. 特定預金取崩収入	2,500,000	0	2,500,000	
当期収入合計(A)	85,595,000	84,420,000	1,175,000	
前期繰越収支差額	12,131,211	18,363,667		
収 入 合 計(B)	97,726,211	102,783,667		

科 目	平成14年度予算額	前年度予算額	増 減	備考
II. 支 出 の 部				
1. 事 業 費				
出 版 費	12,000,000	11,100,000	900,000	
図 書 管 理 費	400,000	400,000	0	
調 査 研 究 費	3,480,000	3,300,000	180,000	
指 導 費	2,070,000	1,350,000	720,000	
支 部 関 係 費	12,000,000	12,500,000	△ 500,000	
海 外 諸 関 係 費	500,000	400,000	100,000	
山 岳 研 究 所 運 営 費	6,600,000	4,950,000	1,650,000	
海 外 登 山 補 助 費	1,600,000	1,600,000	0	
そ の 他 事 業 費	9,850,000	9,000,000	850,000	
印 刷 ・ 製 本 費	2,300,000	1,000,000	1,300,000	
刊 行 物 発 送 費	5,300,000	5,300,000	0	
事 業 費 計	56,100,000	50,900,000	5,200,000	
2. 管 理 費				
給 料 手 当	12,400,000	12,400,000	0	
文 具 消 耗 品 費	450,000	350,000	100,000	
印 刷 製 本 費	1,100,000	1,100,000	0	

Niuxim Shan — Naoki Ohuchi

牛心山西壁 (600m) 初登攀

Unveiling 5,892m Peak north of Mt.

Siguniang — Tamotsu Nakamura

四姑娘山の北、知られざる5892m峰東面の探査

- Challenge again to the Lhotse South Face —
Winter 2003 — Osamu Tanabe

ローツェ南壁冬季登攀—2003年12月再挑戦

- Skillbrum in Karakoram: Funeral Report —
Nazir Sabir

パキスタン・カラコラム：スキルブルム遺体埋葬、ナ
ジール・サビール

- A Dream in Shangri-La — Hotel Everest View
— Kei Kurachi

シャングリラの夢—ホテル・エヴェレスト・ビュー

Front Cover: The SE face of Kaqur-Kangri in the
morning sunshine (Toyaji Wada)

表紙写真：モルゲン・ロートに輝くカチュールカンリ南東
面 (和田豊司)

Japanese Alpine News Vol. 4 May 2003
Special Submission

East of the Himalayas ヒマラヤの東
Tamotsu Nakamura 中村保

■FOREWARD 序文

■PART 1 ARTICLE テキスト

TO THE ALPS OF TIBET チベットのアルプ
スへ

Nyaiqentanglha East, Kangri Garpo &
Hengduan Mountains

念青唐古拉山東部、カンリ・ガルポ、横断山脈—山城の
地理・氷河・山系・探検史・登攀史の概説—

UNKNOWN NYAINQENTANGLHA EAST

未踏の念青唐古拉山東部

New Discovery 2002 — Quest for the Veiled
Mountains

2002年新しい発見の旅—知られざる山々へ

PILGRIMAGE ROUND MEILI XUESHAN

梅里雪山巡礼路をめぐる

Northwest Yunnan — Circumnavigation of the
Holy Mountains

雲南西北・聖山一周紀行

■PART 2 PHOTOGRAPHS 写真・カラー 75枚

■PART 3 MAPS 地図・27枚 (全ての山系をカバー)

Front Cover: The magnificent north face of
Kongga 6488m in the headwaters of Puyu valley,
south of Pelber (Pemba), Nyainqentanglha East
(Tamotsu Nakamura).

表紙写真：念青唐古拉山東部・ブユー谷、コンガ峰6488m
の壮麗な北壁 (中村保)

Climbing & Medicine · 22

スズメバチによる刺傷

秦 和壽

だいぶ前のことになるが、山岳関係者を驚
かせるハチの事故があった。愛知県豊橋市の
立岩 (60度の傾斜で80mの高さ) で岩登り
中の2名が、スズメバチの大群に襲われたの
である。バランスを崩し一人が落下し死亡し
た。皮肉なことに刺された跡はなかったのだ
である。

国内では毎年約30名がスズメバチに刺さ
れ死亡している。ハチ毒は高分子のタンパク
質で、数μgで死に至ることがある。特に、
頭や首などの刺傷は注意が必要だ。アナフィ
ラキシーショックといわれる。

ハチ類は積極的に刺すこともないのだが、
前を歩いたヒトが故意にハチの巣をイタズラ
した場合などは、後から来たヒトが襲われる
ことがある。一般的なハチ除けは、付近に來
たときは地面に伏せたりじっとして刺激を与
えないことだ。キャンプ場では缶ジュースに
集まる。飲みかけの缶に入ったハチに気づか
ず喉を刺された例もある。こうなると医師の
治療を受ける以外にない。

持参する薬剤は、虫刺され軟膏 (ステロイ
ド+抗ヒスタミン軟膏) がよい。この他、多
量の水で洗い、冷やすことも効果的だ。

手つかずの大自然。極東の秘境で山と温泉と川下りを楽しむ

カムチャッカ半島 アバチャ山登頂 6日間

〈新潟発着〉7/19●7/26●8/2●8/9●8/16発
254,000円～278,000円

〈関空発着〉アバチャ山登頂とフラワーハイキング 8日間
7/29●8/5●8/12発 338,000円～358,000円

国土交通大臣登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員 Eボンド保証会員
アルパインツアーズ株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋1-12-1 西新橋1森ビル2F ☎03-3503-1911
大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail: info@alpine-ts.co.jp http://www.alpine-tour.com

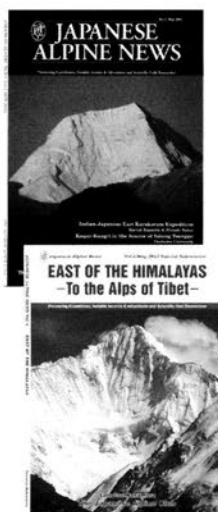
英文誌『ジャパニーズ・アルパイン・ニュース』 第3、4号発行

JAN編集人 中村 保

5月にJapanese Alpine News (JAN) Vol.3とVol.4を同時に発行しました。Vol.3 (80ページ) は通常の編集形態をとり、Vol.4 (113ページ) は編集人の出身元である一橋大学山岳部OB会・針葉樹会から日本山岳会への100万円の寄付を活用させていただき、編集人が長年にわたり取り組んできた「ヒマラヤの東チベットのアルプス」を特集号としてまとめました。

Vol.2を2002年4月に発行して以来、海外からの反応は良好で、新たに約100人の購読希望が欧米からきております。UIAA (国際山岳連盟) はJANを英国アルパイン・ジャーナル、アメリカン・アルパイン・ジャーナル、ヒマラヤン・ジャーナル等と同列に位置付け、記録の正式な出典として認知してくれています。徐々に浸透してゆく手応えが十分感じられます

概要をご理解いただくために、それぞれの目次を下記に紹介いたします。なお、部数に限りはありますが、有料にて販売いたします。送料込みでVol.3は1冊1500円、Vol.4は1冊2000円です。ご入用の方はJAC事務局にFAXまたはメールでお申し込みください。振込用紙とともに冊子小包で送ります。



Vol.3(上)とVol.4(下)

Japanese Alpine News Vol.3 May 2003 TABLE OF CONTENTS

Indian-Japanese East Karakoram Expedition 2002—Harish Kapadia & Hiroshi Sakai

日印合同・東カラコラム遠征2002 —パドマナブ
7030m初登頂・テラムシェル氷原探査

Triumph of Kaqur Kanri 6,859m in the Source of Yalung Tsangpo—Toyoji Wada

同志社大学—チベット・ロンライカンリ山群カチュール
カンリ6859m初登頂

Newly opened Tengi Ragi Tau 6,943m in Nepal— Koichi Ezaki

北海道岳連—ネパール・新たにオープンされたテンギラ
ギタウ6943m初登頂

Unfrequented Shimshal Valley in Karakoram— Tadahi Kamei

横浜山岳会—パキスタン・カラコラム、未踏のシムシャ
ール谷の探査と測量

First Ascent of Dangchezhengla 5,833m—Koichi Sakamoto

横断山脈研究会—中国四川省未踏の山群・ダンツェチ
ェングラ5833m初登頂

First Ascent of Shimokangri on Tibet-Bhutan Border—Tamotsu Nakamura

POSCO (韓国浦項製鉄所) 山岳会—チベット/ブータン
国境・シモカンリ7204m初登頂

Pilgrimage for Plants in Yunnan-Tibet borderland—Toshio Yoshida

吉田外司夫の植物巡礼—雲南チベット辺境、サルウイ
ン流域・深い浸食の国を行く

Yamanois, Incredible Survival—Yoshinobu Emoto 山野井泰史・妙子夫妻—ギャチュンカン北壁からの奇跡 の生還

First Descent of the Upper Mekong River — Masayuki Kitamura

東京農大探検部—中国雲南省西北部・メコン川上流部ゴ
ルジュ帯初下降、塩井から雲嶺へ

Data File of The Himalayan Association of Japan —Kinichi Yamamori

日本ヒマラヤ協会—2002年・日本のヒマラヤ登山の主
な記録

Topics on Climbs and Explorations: 登攀と探検のトピック

- Kwande Lho (6,178m), Khumbu —New Finish
on the N Face—Hiroyuki Nakagawa
ネパール・クンブ: クワンデロー 6178m北壁に新
ルートを拓く

- First Ascent of Pokharkan (6,346m), Nepal—
Koichi Kato
ネパール・ダムドールヒマール: 新たにオープンされ
たポカルカン6346m初登頂

- Arniko Chuli-Mustang Himal again in 2002 —
Tamotsu Ohnishi
ネパール・ムスタンヒマール: 大西保の2002年アル
ニコチュリ紀行

- Two Attempts on Qonglai Mountains in Sichuan
中国四川省・チョンライ山系: 2つの登攀・探査

Outstanding Rock Peak — The W Face of

海外の山

「シェルパの時代」と
70歳の登頂日記

江本 嘉伸

空を飛びたい、という人類の「夢」を実現したのは、アメリカの自転車工場経営者、ウィルバー(36)、オーヴィル(32)のライト兄弟である。ちょうど100年前の1903年12月17日、ふたりはノースカロライナのキティーホークで「フライヤー1号」を操縦して初の滑空に成功した。といつても、高度はわずか3^{メートル}、滞空時間は12秒であつた。

飛翔したい、という夢の達成のために人類がかけた情熱は、半端ではない。しかし、後世の航空史家の中には、「夢」のためではなく、兄弟が「ビジネス」として飛行機の開発に取り組んだのだ、と指摘する者もいる。実際、その後もライト兄弟は秘密に開発に取り組み(機体は新聞記者たちにはいっさい見せなかった、その技術を特許として売りこみ、最後には軍に売りつけたのである。100年たった現在、軍事、旅行に航空

機がいかに重要な意味を持つか、説明の必要はない。ライト兄弟の「偉業」に驚いた当時の人々は、500人も人間を乗せた巨大な機体が音速並みのスピードで世界中を飛びまわる姿など想像もできなかったに違いない。

飛ぶことへのあこがれに限らず、「夢」はいったん実現されると、科学技術の進歩に後押しされて、少しずつ享受する者の輪を広げてゆき、やがてビジネス世界の一翼を担うようになる。たとえば、南北両極点に立つことは、長い間、人類の夢であつたが、いまでは航空機や原子力破冰船による北極点ツァー、南極点ツァーが企画され、金さえ払えば、参加できる場ともなっている。そして、エヴェレストも、まさに……。

1953年、ヒラリーとテンジンが頂上に登りつめた時、それはまさしく長年の「夢」の達成であつた。そして、初登頂からわずか半世紀のエヴェレストを一言で解説するならば、50年をかけてそこが、山頂に立ちたい、と望む人々の「夢」をかなえるビジネスの場となつた、と言えるのではないか、と思う。それを可能にしたのは、効率の良い酸素ボンベをはじめ、物理的に小型・軽量化

した装備の数々、そして、何といつても「シェルパ」と一般的に呼ばれる高所ガイドの飛躍的な実力向上のおかげである。

そのことは、会社をつくって仕事を始めた欧米の登山家たちによる商業公募隊だけに及ぶことではない。一般の登山隊でも、ほとんどがシェルパの力をあてにして、自分でルートを切り開く登山者は少ない。2003年のエヴェレストも、結局はそのことの証明に尽きた、のではないか。

足早な事後報告をすると、この5月、登頂したのは220人(数字は速報なので多少のずれはある)と、初めて200人を越える最多記録となつた。このうち、ネパール人が121人を占める。ひとりは、28歳のジャーナリストで、あとは、ほとんどが登山隊を助けるシェルパ族とみられる。その中には、史上最年少の15歳の少女、ミンキパ・シェルパ、(ネパール側は16歳以下は禁止されているので、チベット側から登つた)。ベースキャンプから頂上まで「10時間56分46秒」というスピードで登頂記録をつくつたラクパ・ゲル1・シェルパ(36歳)、そして、43歳にして「登頂13回」の記録をつく

つたアバ・シェルパらがいる。

冬季登攀、無酸素登頂、難しい壁ルートへの挑戦など、各国のヒマラヤニストたちがチャレンジしてきたエヴェレストの登山史の中で、登頂回数とスピード記録(標高差3500^{メートル}を10時間あまりで登りきるとは、ほとんど信じられないことだ)、それに最年少登頂などは、シェルパにしかできない、独特のパフォーマンスだ。彼らは、時には外国隊のメンバーとなつて、時には記録の達成のため独自に許可を取り、最高峰に向かうのだ。

100人を数える外国の登頂者の中で、日本隊は、登頂12人と健闘した。注目されるのは、東京農大環境登山隊だ。谷川太郎登攀隊長以下5人が5月10日、ローツェ(8516^{メートル})に登頂、その足でエヴェレストに向かい、22日に谷川以下5人が登頂を果たした。

そして、今シーズンの話題の中心となつた感のある三浦雄一郎。山頂までサポートした6人をはじめエヴェレスト経験豊かなシェルパのサポートがあつたことだが、70歳にして8000^{メートル}以上の高所で4晩過ごした後の登頂は、見事といふしかない。高所に長時間滞在すれば、仮に



三浦隊もシェルパのお世話になった

いくら酸素を吸えたとしても、衰退が起こることは、多くの高所医学専門家が指摘してきたことである。その上に心理的にも追い詰められてくるプレッシャーもあるであろう。

70歳の三浦の健闘ぶりは、たとえば、5月21日、8400mのキャンプでの日記からもわかる。

「我々は今、チョーオユー山頂より200m高い高所にいる。ほとんどビバーク状態になってしまった。

〔中略〕村口（注・徳行、昨年女性の最高齢の渡辺玉枝とも登っている46歳の山岳カメラマン）さんは本気でどうやって全員が生きて還れるか心配し始めた。もう、ノドはカラカラ、水もない、食べるものはない、わずかにあるものといえば、テント

の底に落ちている、ビスクットやかりんとうとカスだけ。僅かな残りは脱出用にとっておかなければいけない」

そして、登頂当日。父子は、なんと次第にペースを上げ、何人かを追い抜き、ついには「登頂ラッシュ」にぶつかってしまう。

「南峰のナイフのような雪と氷の稜線から、ほとんど垂直に近い登りが始まる。目の前に聳えていたローツエがどんどんと低くなっていく。

ところがなんと、都会のラッシュアワー並みの渋滞が始まったのです。それまで急斜面のロープにつかまりながら、5分、10分と待つことがあったけど、8500～8600と標高があがるにつれて、ほとんど動けない状態の人たちがでてきた。一本しかないロープ、一步でも踏み外したら命はない」

そして、登頂。

「とうとう夢に見たエベレストの頂上にたどり着いた。人は幾つになっても、夢を持って目標をたて、それに向かっの諦めない一歩づつ、登り続ければとうとう世界一の頂上に立てるのだ。70歳と7ヶ月、世界最年長登頂、人間は年をとってもよいこともある」

ヒラリーの時代に較べてエヴェレストは、確かに登りやすくなったであろう。金をかければ登れるさ、とやっかむ声が聞こえないでもない。しかし、そこは依然、死の世界だ。

1970年、日本山岳会隊との競争のため「登頂しない」ことを条件にサウスコルからのスキー滑降をやつてのけた三浦雄一郎の33年後の登頂は、5年の準備期間と、このチームの持つすぐれた人間性によるのではないか、と筆者には感じられる。同時に、「次は71歳登頂……」というような年齢記録を考える人がいれば、そろそろ控え目にしてもらいたい、という気がする。

さて、シェルパであるが、何度か書いてきたが、シェルパは「シャル（チベット語で「東」の意味）から来た人（パ）」の意味である。当初、彼らはとくに登山に優れていたわけではなかった。16世紀、東チベットのカム地方からソル・クンプ地方に移住した、この敬虔なチベット仏教徒たちが初めて登山を体験したのは1920年代。イギリス隊がエヴェレストの挑戦を開始した時で、拠点はインドのダージリンであった。英東インド会社がりゾートとして開発したこの町に、ソル・クンプのシェ

ルパたちは、当初交易や建築の仕事で出かけ、やがて住みつき、シェルパ社会を構成するに至ったのである。テンジン・ノルゲイの初登頂をきっかけに、シェルパ社会から次々にヒマラヤ高所登山のアシスタントに転じる者が出た。高所での辛い、危険な作業に黙々とあたるシェルパたちの姿に敬虔なチベット仏教徒であることのイメージも加わって「力強く、従順な」という感動的な形容詞が冠されるようになった。しかし、別な見方をするとすれば、シェルパ社会に新しいビジネスが育ち、広がっていったのである。

エヴェレストの半世紀はシェルパが英国人に育てられた時期から卒業し、いまや名実ともに「ヒマラヤのあるじ」に移行し始めた、ともいえるのではないか。

これからは、エヴェレスト登山は、いつさいシェルパに頼らない登山、高所助っ人として荷揚げなどでシェルパの力をあてにする折衷派、すべてをシェルパに任せる「連れて行って登山者」に明確に分けられるだろう。そのどれであつても、登山の経緯は、正直に報告してほしいし、また、正当な評価がなされるべきと思う。

報告

REPORT
6月

学生部指導・指導委員会

全国大学山岳部会議開催

平成14年度大学山岳部会議が3月28日18時30分から法政大学市ヶ谷キャンパスにおいて開催された。この会議は、過去7回にわたって行われてきた監督会議を基礎として、今回は現役学生やコーチなども交え「元氣印の大学山岳部全員集合」と題し、20大学、50名が参加して行われた。

内容は、明治大学「ドリームプロジェクト」の完成に向けて、法政大学「新入部員獲得作戦」、信州大学「山好き個性派集団の行動様式」、東京大学「個性を伸ばす」自由主義など、活発な活動を裏付ける各大学代表者の発表と意見交換があり、月刊岳人誌で大学山岳部を取材してきた新井和也氏の講演なども交えて充実した会議となった。(参加) 法政、専修、一橋、

学習院、明治、日本、京都、神奈川、東京農業、明治学院、中央、千葉、立教、東京理科、獨協、慶応、防衛、信州、東京、國學院
(黒川 恵)

学生部

新入生歓迎山行

4月12日から13日にかけて、奥多摩氷川キャンプ場において学生部主催の新入生歓迎山行が行われた。年々減少傾向にある大学山岳部に興味を持ってくれた新入生を、大勢の学生で迎えてあげようという、学生部初の試みである。

12日(土)の夕方、氷川キャンプ場に13大学、40人の学生が集まった。当初はテント泊を計画していたが、あいにくの雨のためロッジを借り切つての宴となる。全員で作り上げた夕食を囲み、山岳部の魅力を夜が明けるまで語り合った。

13日は複数のグループに分かれ、奥多摩むかしみちを歩く班、本仁田山を往復する班、氷川屏風や御岳ポルターを登るグループなど、各々が新緑の奥多摩を楽しんだ。

本年度学生部第1回目のイベントであったが、予想以上のたくさん

んの参加者に、幹事一同非常にうれしい限りであった。今後もさまざまな企画を催していきたいと思うので、さらなる多数の参加者をお待ちしております。

(学生部委員長 和田 岳史)

山げらの会

2003年公募・歩くスキー

4月11日(金)より13日(日)の2泊3日。六日町温泉国際ユースホステルを宿として、4月なお積雪3層を越す奥只見方面で歩くスキーを催した。総勢23名。盛会であった。歩くスキーに参加して

4月11日。午後10時半、全員がユースホステルに集合した。夜も遅いので、簡単な自己紹介からスタート。11時、皆明日を楽しみに眠りに就いた。

12日。9時に出発。バスが長いトンネルを抜けると、銀世界となる。3層もある雪の壁を縫って道が続く。その昔銀が採れたころは賑わっていたという銀山平が今日の会場である。10時10分、北又川下流を思い思いに滑り始める。トップとラストは、幹事のリーダーたちが固めてくれている。クロス

カントリーは本当に自由にそれぞれの滑り方で楽しめるのがいい。なんとも言えない開放感。あつというまに時間はたち、12時20分デポ地に戻って昼食となる。

リーダーの内山さんが雪の大テールを作って待っていてくれた。山菜の天ぷらという凝った趣向だ。ヨモギ、フキノトウ、コゴミ、自然の恵み満載。暖かいご飯と豚汁、食後は抹茶に菓子つきと、何とも幸せなひとときであった。

午後は、北又川上流を滑る。雨のため早めに切り上げ、別行動の温泉組と2時に合流、帰途につく。山げらの会は年に1度だけ公募で会員外の参加を募り、歩くスキーを開催している。来年もできれば、ぜひまた参加したいと思っている。

(左子 敦子)

13日。昨夜からの雨も止み、8時に丸山スキー場にマイクロバスで出発。9時30分リフトを乗り継ぎ丸山頂上に向かう。ポーターが多く、スキーヤーは本当に少ない。ユースで揃えてくれた新品のスキーは具合が良く快適。誰かが「やつぱり道具だな」と、私も全く同感である。頂上に着いても濃霧。晴れていれば眼下に銀山湖、正面

に燧岳、至仏岳、平ヶ岳、荒沢岳と内山リーダーが説明してくれるが、山影すら見えない。

参加者23名を雪原組と樹林組の2班に分けて行動開始。雪の樹林帯を無心に歩く。霧はますます濃くなり、少し離れると前を行く人を見失いそうになる。二本目のリフト乗り場にや々と下りてきて、魚沼こしひかりのおいしいおにぎりのランチタイム。少し青空が見えてくる。12時50分には下山開始。天候が良くなれば体も軽くなるのか、林間を思い思いに滑降してゆく。駐車場で熱いコーヒーにお菓子、ユースホステルに戻ると内山リーダー夫人お手製のお汁粉にシフォンケーキ。いたれりつくせりに、一同感謝感激。春の雪山を歩き、温泉でゆつくりと汗を流し、流れ解散となった。

今回公募による参加で不安のたまりだったのが信じられなくらいに、気がつくのと溶け込んでしまっていた。幹事役の皆さん、現地協力者として支えてくださった越後支部の吉田理一さんと、新潟から参加の百崎さんに心からのお礼を申し上げます。ありがとうございました。

(渡部 温子)

東西南北



イラスト・宇都本慎一

日本百名山写真展開催

小倉 厚

本年は、『日本百名山』の著者で本会の元副会長だった深田久弥(会員番号1586)の生誕100年にあたる。

出身地加賀市大聖寺では「深田久弥 山の文学館」(注)もオープンし多彩な記念行事が開催されて



開会式でのテープカット

いるが、それと並行して東京でも渋谷の東急東横店特設会場で「日本百名山写真展」を開催した。期間は5月15日から20日まで。

この写真展には日本山岳会も共催しており、開会式には大塚博美会長も出席、大勢の報道陣の見守るなか、森喜郎衆院議員、若林幸子加賀市議会議長に次いで祝辞を述べるとともに、深田久弥氏の甥深田勝弥氏、山の文化館館長高田宏氏と主催者である大幸甚加賀市長を加え、盛大な拍手のうちにテープカットが行われた。

会場には、平成9年度から実施の「深田久弥日本百名山写真コンテスト」の優秀作品をそれぞれ春夏秋冬の四季に分け百数十点を展示しているほか、プロ写真家などによる「百名山の美」の特大パネルも数十点飾られ、まさに写真による日本山岳美の殿堂の感があつた。また会場のひと隅には遺品や山岳図書、地元加賀市観光物産のコーナーも設置され、10時の開店と同時に観客は会場にあふれるほどになり、じつくりと鑑賞もできないほどの満員の盛況となった。とくに開会初日とあって、午前中には先ほどの高田宏氏と午後か

らはNHK元講師の岩崎元郎氏によるトークショーも行われた。すでに開会前より熱心な深田ファンの中高年登山者とともに女性登山者の聴衆が詰めかけ文字通り立錫の余地のないほどになった。

このような日本百名山ブームにはそれぞれの見方、批判もあるうが、この状況を見る限り、改めて『日本百名山』の人気の根強さを再認識させられた。

(注)「深田久弥 山の文化館」
〒922-0067 加賀市大聖寺番町18 TEL 076-172-3313



ATLAS TREK

個人手配旅行から人気のトレックツアーやエクスペディションのアレンジまで。充実度が違う「旅」のプランニングをこころがけています。山旅などあらゆるジャンルを取り扱っています。お気軽にご連絡ください。

株式会社 アトラストレック
(国土交通大臣登録旅行業1167号)

東京/〒160-0008 東京都新宿区三栄町23 TEL 03-3341-0030
大阪/〒540-0012 大阪市中央区谷町3-4-5 中央谷町ビル501号 TEL 06-6946-9111
名古屋/〒464-0807 名古屋市中区東山通り5-113 オークラビル6F TEL 052-788-2422



参加者募集のお知らせ

事業委員会

●夏山親子登山

北アルプス立山・剣の大自然の中で、親子の絆をさらに深めましょう。

日程 8月15～19日

場所 立山三山縦走(初心者)・剣岳(上級者)

費用 概算3万円(現地集合・解散)

参加資格 小学4年生～中学生までの子どもと親(祖父母参加歓迎)

申込み期日 7月10日

●米国 Mt. Whitney 登山、ヨセミテトレッキング

会員の要望に応えた「秋のヨセミテの紅葉と米本土最高峰の登山ツアー」

日程 9月6～15日

行程 成田発(6日9:55)ーロスアンゼルスーローンパインーホイットニー山ーヨセミテ公園トレッキングーサンフランシスコー成田着(15日14:55)

場所 ヨセミテ・ホイットニー山(4417m)

費用 概算53万円

募集人数 先着30名

申込み期日 7月30日

申込み 郵便またはメールにて氏名、会員番号、住所、電話番号、メールアドレスを明記し、山崎浩子宛(〒236-0033 横浜市金沢区東朝比奈区1-65-3 y-hiro@fa3.so-net.ne.jp)

Flash

速報

東京農大隊は5月10日、ローツェ・同22日、エヴェレストに各5名が登頂成功しました。
明治大学隊は5月16日、アンナプルナ南壁に6名が登頂成功しました。

図書受入報告(2003年3～4月)

著者	書名	ページ・大きさ	出版元	出版年	寄贈/購入別
John Keay	The Great Arc	182pp/21cm	Perennial	2001	購入
J.Hemmle & E.Simonson	Detectives on Everest: 2001 Mallory & Irvine Research Exp.	208pp/25cm	Mountaineers Books	2002	購入
Vittorio Sella	Summit: Mountaineer & Photographer the Years 1879-1909	144pp/32cm	Aperture	1999	購入
早川禎治	カイラス巡礼: インダスとガンジスの内奥をめぐる	345pp/19cm	中西出版	2003	著者寄贈
坪田弘子 他(共編)	Bush(第76号): 創立45周年特集号	118pp/26cm	Bush山の会	2002	発行者寄贈
小池潜	愛しき山稜: 双六岳をめぐる(小池潜写真集)	111pp/23cm	山と溪谷社	2003	出版社寄贈
タシ&ジュディ・テンジン	テンジン: エベレスト登頂とシェルパ英雄伝	350pp/20cm	晶文社	2003	出版社寄贈
吉長成恭・関根秀樹(共編)	焚き火大全	351pp/22cm	創森社	2003	出版社寄贈
山森欣一(編)	白き山河の旅人: 山田昇遺稿・追悼集	471pp/22cm	山田豊(私家版)	2003	発行者寄贈
総務省信越総合通信局(編)	中年登山者のための電波利用に関する調査研究報告書	95pp/30cm	総務省信越総合通信局	2003	発行者寄贈
野口健	落ちこぼれてエベレスト(集英社文庫 ノー5-1)	316pp/16cm	集英社	2003	出版社寄贈
国際山岳年日本委員会(編)	国際山岳年2002富士山エコ・フォーラム報告書	45pp/30cm	国際山岳年日本委員会	2002	発行者寄贈
佐伯邦夫・橋本廣(共編)	富山県山名録	356pp/27cm	桂書房	2001	編者寄贈
高澤光雄(編)	北海道登山史年表(山書研究 No. 37 別刷)	40pp/21cm	日本山書の会	1992	金井哲夫氏寄贈

会務報告

4月理事会

日時 4月9日(水)18時30分～20時
40分

場所 日本山岳会会議室

「出席者」 大塚会長、長尾、村井各副会長、西村、坂井、今村、高原、朴元、鳥居、藤本、高遠、鈴木、河西、大野、宮下、小川、中村、黒川、松原各理事、古市、内田各監事、平林、宮崎、宇田川、鰐坂各常任評議員

「委任」 芳賀副会長

【審議事項】

1 平成14年度事業報告(案)について 西村

別添資料により提案があった。

(承認)

2 平成14年度収支決算報告(案)について 村井副会長

別添資料により提案があった。

なお、監査を4月14日受け、19日の評議員会に諮る。

併せて、1、2号案件議事録の署名人を、藤本慶光、高原三平の両理事とした。

(承認)

3 岩手、広島各支部長改選について 西村

次のとおり新支部長改選申請があった。

(岩手支部) 菊池 修身・会員番号6275

(広島支部) 種村 重明・会員番号6953

(承認) その他役員等の変更についても別紙のとおり報告された。

【報告事項】

1 3月29日開催の評議員会について 村井副会長

以下のとおり報告があった。

①平成15年年度事業計画(案)、収支予算(案)は了承された。

②平成15、16年度理事・評議員の改選について、3月12日の理事会承認案が了承された。

③平成15、16年度会長・副会長・監事の改選について、監事候補は素案どおり了承されたが、会長・副会長については候補者を絞りこめなかった。拡大常務理事会を開催のうえ再度評議員会にかける。

④規定類で「名誉会員推薦等に関する内規」、「外国人名誉会員推薦内規」が改正された。

2 写真掲載、名義後援等の依頼について 西村

以下の依頼に対して承認した。

●朝日新聞社より「朝日ビジュ

今年もさくらで会いましょう

ルシリーズ 日本遺産」第36号

「立山・黒部溪谷」(6月発刊)で掲載する「冠松次郎と案内人」の写真

●富山県立山博物館より、当館所蔵用に別宮貞俊氏制作のフィルム「黒部の秋」、「真川より黒部川・剣沢入り」の複製作成(当会フィルムビデオ委員会を窓口とする)。

●岩橋崇至会員より、岩橋崇至写真展「北アルプス讃歌」(文部科学省「子供と話そう」全国キャンペーン協賛事業)への名義後援

3 平成15年度通常総会の開催について 西村

標記を、平成15年5月17日(土)14時より東京グリーンホテル水道橋で開催する。今月下旬に案内を送、併せて、創立100周年記念募金のお願いを今年より3年間実施する(毎年一人30000円ずつ)。

4 文部科学省競技スポーツ課による実地検査(監査)について 西村

3月25日、標記、同課近藤秀樹氏により実施された。重要指摘はないが、いろいろと指導があった。

5 国際山岳年日本委員会総括について 高遠

4月8日、国連大学ホールで総括フォーラム「山やまの未来を」が、4月19、20日日本大学文理学部でクロージングシンポジウム「我らみな、山の民」を開きしめくくりとする。

6 第6回秩父宮記念山岳賞について 西村

7月31日より、本年度の推薦を受け付ける。なお、今年より副賞金額を30万円とする(今までは20万円)。

7 支部行事等への参加予定について 西村

支部総会への出席予定は以下の通りとする。

4月12日 岐阜(村井副会長)、山梨(芳賀副会長)、山陰(長尾副会長)、19日東海(今村常務理事)、20日信濃(西村常務理事)

8 ガンケルプンズム登山許可交渉派遣について 村井副会長

100周年記念事業海外登山予定の同峰の登山許可交渉に、3月31日より5日間、吉永評議員をブータンに派遣した。

9 同好会登録報告について

高原

「同好会規定」により以下の2グループより登録申請があり、当会同好会として承認した。「休山会」「97同期会」

なお、現在23の同好会が登録済。

10 各委員会報告 (今月より新たな委員会名とする)

総務委員会

高原

支部長会議を、5月17日(土)10時30分よりグリーンホテルにおいて、また前夜の16日(金)19時より同ホテルの近くの料理屋で支部長懇談会を開催する。役員の参加を望む。

財務委員会

村井副会長

3月末で、1年前より会員数減が42名生じた。これは初めてのケースだ。物故者も多いが、除籍者が多い。新入会員を確保しなければ財政的に厳しくなる。

会報編集委員会

今村

4月号は、平成14年度の海外登山基金助成3隊(東海支部ローツ

エ南壁、明大アンナプルナー峰、東農大エヴェレスト・ローツエ)の計画がトップ記事。

海外委員会

中村

● Japanese Alpine News 次号は5月発行予定。

● AAJの1929年からの記録のCD・ROMの紹介があった。

自然保護委員会

河西

● 「高尾の森」第3回植樹祭を、4月13日(日)10時より開催する。出席予定者は300人を超える。

● 「高尾の森」通信9号発刊。

事業委員会

朴元

カンگری・シャルシニア登山隊11名(平均年齢61歳)は、4月15日出発、登頂予定は5月中旬頃。

支援トレッキング隊は6名の予定。

山岳編集委員会

高遠

来月に委員会メンバーの変更はあるが、予定メンバーで、編集長を決めて編集作業にはいる。

その他

11

①(社)日本山岳ガイド協会(橋本龍太郎会長)の設立発起総会が4月14日開催される。会長代行で鳥居理事が出席予定(当協会は、(社)日本アルパイン・ガイド協会と日本山岳ガイド連盟が合体したもの)。

②エヴェレスト登頂50周年に因ん

で、当会のエヴェレストについての取材がサンケイ新聞社よりあり、平林常任評議員が対応する(5月11日掲載予定)。

■会員異動

物故

熊木貞夫(6461)

米澤典之(6022)

03・3・6

03・3・9

ユングフラウヨッホにいちばん近い村、ウェンゲンの家庭的なホテルアイガーと、スイスの旅の専門店アルプスウェイが自信をもってお勧めする共同企画。

アルプスウェイご利用で、ホテルアイガーにお泊まりの日本山岳会会員様へ4つの特典。

1. ユングフラウのよく見えるお部屋を優先的にご提供。
2. 民族料理フォンデューをご滞在中の夕食に1回ご用意。
3. アルプスウェイ駐在員による1日の専属ガイドサービス。
4. ホテルのオーナー、フックス氏より地元産リキュールをプレゼント。



あなたのスイス旅行を、このホテルアイガー滞在を組み入れてご用意します。

お問合わせお申込みは **アルプスウェイ**

<http://www.fellow-travel.co.jp/>

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂2-16-8 ビジネスウィップ渋谷ビル4F

Tel.(03)5489-9541 Fax.(03)5489-6300

e-mail alpsway@fellow-travel.co.jp

〒530-0002 大阪府大阪市北区曽根崎新地2-3-13 若杉大阪駅前ビル6F

Tel.(06)6347-8984 Fax.(06)6347-8986

e-mail osaka@fellow-travel.co.jp

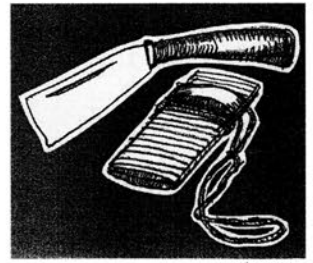
主催：株式会社 **フェロートラベル**

国土交通大臣登録旅行業664号 協賛：ウェンゲン観光局・ツェルマット観光局 後援：スイス政府観光局



安達久美子	改姓	高木敏朗	熊谷隆俊	橋本千鶴子	岩崎恒雄	緒方裕	森山稔	岸田幸雄	田島祐一	退会	美坂哲男	飯野亨	村上徹	林雄吾
(11860)		(11682)	(11632)	(11379)	(10552)	(8822)	(8784)	(8810)	(4405)		(4937)	(4467)	(2528)	(1885)
↓野嶋		岐	青				東	静			03・4・30	03・4・24	03・4・20	03・3・23

INFORMATION



イラスト・宇都木慎一

◆「気象講座」

科学委員会

恒例の夏山を前にした気象講座。
講師 城所邦夫会員 (元日本気象協会)

日時 7月3日(木)18時30分～20時
会場 日本山岳会集會室

※事前の申込みは必要ありません。

◆登山の常識(第2回)「山の救急法講習と高山植物観察」

指導委員会

万一事故に遭ったときのために
高山植物講師も同行の白馬岳。

日程 7月25日(金) 13時35分JR

白馬駅集合。白馬尻(泊)。

26日(土) 大雪溪から白馬山

荘(泊)。

27日(日) 蓮華温泉へ下山後

解散。

費用 25000円(バス代、山

小屋2泊4食代、保険料)

内容 山の救急法、手当の基本、

外傷、打撲、捻挫、骨折、
搬送法及び高山植物の同定。
講師 恵秀彦会員(日赤救急法指
導員)、中村至伸会員(山
岳写真家)

定員

15名

申込み 7月5日までにハガキで

黒川恵宛(〒161-000

31 新宿区西落合1-7

14)

*申込者には、案内を送付します。

◆2003年度自然保護全国集会

自然保護委員会

岐阜支部と共催で、下呂温泉と

乗鞍岳にて開催、懇親会あり。

期日 10月12日(日)、13日(月)

日程 12日 ホテルパストゥール

(下呂温泉) に集合、9時

開会、支部報告、テーマ報

告、討論、夜懇親会

13日 乗鞍岳ほか登山 夕

方解散

テーマ「環境保全と登山のあり方

を考える」

費用 18000円(1泊4食)

オプション 11日 下呂御前ブレ

山行。前泊も受付(別途1

泊2食12000円)

申込み 7月15日までにハガキか

メールで川越尚子宛(〒1

85-0011 国分寺市
本多3-7-31 メール

kawagoejac@mt.biglobe.

ne.jp)

*申込者、希望者には詳細案内を
送付します。

◆フォーラムIN松枝岐・尾瀬

自然保護委員会・緑爽会後援

「自然と人間の暮らしを考えるフ

ォーラムIN」主催の恒例集会。

期日 8月22(金)～24日(日)

場所 会津松枝岐村、尾瀬周辺

費用 25000円(チャーター

バス利用の場合は別途10

000円)

日程 22日 松枝岐村「武田久吉

メモリアルホール」見学後

交流集会第1部①コンサー

ト②演劇「山月記」③シン

ポジウム「いま、尾瀬の父

・武田博士を考える」武田

澄江、林静枝、星広人、土

橋進一、近藤信行、国見利夫

宿泊・御池ロッジにて会食

後交流集会第2部を予定

23日 ①会津駒ヶ岳登山(松

枝岐泊) ②燧岳登山(尾瀬

泊) ③尾瀬縦断 ④沼山―三

平峠 ⑤沼山―戸倉宿舎・ロ

ッジ長蔵にて会食後、懇親会

山の本の古書店

在庫目録年2回(5月・11月)発行
ご希望の方お申込ください。

ご蔵書を整理するときはぜひ弊店に!



古書買入

晴山書房

東京都中野区上鷲宮4-6-3

TEL&FAX 03(3990)4540

申込み 7月20日までにハガキか

FAXで近藤緑宛(〒16

7-0042 杉並区西荻

北2-10-502 TEL・FAX 0

3-3395-0326)

◆奥日光・光徳懇親会 九五会

旧95同期会員中心に結成された

九五会。翌日は太郎山登山を予定。

日程 7月12日(土)、13日(日)

集合 学習院光徳小屋12日17時

会費 7000円

申込み 7月1日までに氏名、会

員番号、年齢、連絡先を明記

◆八幡平〜裏岩手連峰縦走

東北の山シリーズ(3) 山遊会

静かな裏岩手の山域を岩手支部の及川氏に案内してもらいます。

日時 7月26(土)、27日(日)

集合 9時30分盛岡駅北口(6時56分東京発こまち1号)

コース 茶臼岳―源太森―八幡沼―陵雲荘(泊)―モッコ岳―大深山―三石山―松川温泉

申込み ハガキで辻橋明子宛(〒153-0053目黒区五本木1-35-12・101)

参加条件 自炊具、シュラフなど持って1日9時間歩ける方

*非難小屋泊りにつき人数制限あり。早めにお申し込みください。
*申込者には計画書を送ります。

◆早池峰・兜明神岳親睦山行

02同期会

ハヤチネウスユキソウを見て温泉に入る山旅です。

期日 7月19(土)、20日(日)

集合 新幹線盛岡駅北口10時30分
行程 19日 盛岡駅(貸切バス)

―兜明神岳往復―休暇村岩手―網張温泉泊

20日 網張温泉―大迫町―小田越登山口―早池峰山往復―東和町(温泉入浴)

―花巻駅(解散)

現地案内 西村幸雄(02同期会)

費用 25000円(バス、懇談、宿泊代含む)

申込み・問合せ 向田吉彦までFAXに限り(048-768-1846)

◆山本茂富画展「古都追憶」

会期 6月30(月)〜7月5(土)

時間 9時30分〜17時30分(初日は13時開館、最終日は15時30分閉館)

会場 山手イタリア庭園内の洋館「プラフ18番館」(TEL045-662-6318)

◆松田敏男画展「山の版画展」

山の版画集「光る山山」出版記念

会期 7月8(火)〜20日(日)(14日休)

時間 12〜20時

会場 平安画廊(京都市中京区寺町三条上ル TEL075-231-0694)

◆第5回日本山岳画協会 大町展

会期 7月12(土)〜8月31日(日)

時間 9〜17時

会場 大町山岳博物館(TEL026-1-22-0211)

入館料 大人400円、高校生300円、小中学生200円(30名以上は各50円引)

ルーム日誌

4月

1日 アルパインスケッチクラブ

2日 山岳地理クラブ 02同期会

3日 自然保護委員会 アルパインフォトビデオクラブ

4日 海外委員会 01同期会

5日 常務理事会

6日 総務委員会 フィルムビデオ委員会

8日 常務理事会 アルパインスケッチクラブ

9日 理事会 つくも会 休山会

10日 山の自然学研究会

11日 財務委員会

14日 評議員会 アルパインスキークラブ

15日 インターネット小委員会

16日 00同期会

臨時評議員会 山研運営委員会 三水会

17日 科学委員会 アルパインフォトビデオクラブ

19日 評議員会

21日 資料委員会

22日 自然保護委員会 九五会

23日 図書委員会 アルパインスキークラブ

24日 集会委員会 97同期会 山遊会

28日 高尾の森づくりの会

30日 マナスルの会

4月来室者528人

■訂正 5月(696)号14ページ1段、短歌の作者・永嶺麗子氏は永峯麗子氏の間違いでした。お詫びして訂正いたします。

◆編集後記◆

●平山新会長のもと、執行部が発足しました。創立100周年に向けて具体的な活動方針も固まりつつありますが、募金活動の方もご協力お願いいたします。(今村)

日本山岳会報 山 697号

2003年(平成15年)6月20日発行
発行所 社団法人日本山岳会
〒102-0081
東京都千代田区四番町5-4
サンビュウハイツ四番町
TEL 東京(03)3261-4433
FAX 東京(03)3261-4441
発行者 大塚博美
編集人 今村千秋
Eメール:jac-kaiho@jac.or.jp
印刷 株式会社 双陽社